

ネット千葉

ネットトヨタ千葉
人材開発部リクルート課 後藤まりさん

アナウンサーを目指した 大学での勉強が リクルート課の仕事に 活かしている

第7回 卒業生 職場訪問

卒業生の職場訪問シリーズ第7回は、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科を2014年3月に卒業した後藤(旧姓: 柳衛)まりさん。大学時代、アナウンサーを目指して、小倉淳先生のゼミナールで学んだ後藤さんは今、ネットトヨタ千葉株式会社人材開発部リクルート課で活躍している。(撮影・工藤謙真 君島孝規 取材・文・和田美菜海 工藤謙真)

採用担当にとっても 学生にとっても 第一印象がリクルートの要

後藤さんはネットトヨタ千葉人材開発部リクルート課に所属し、採用担当者として働いている。

採用担当者の1年間の仕事の流れをざっと説明すると、次のようになる。3月に就職活動が解禁すると同時に会社説明会や各大学の学内説明会を約2か月間行い、その後は書類選考、面接、次年度以降向けのインターンシップ、内定式と続く。11月には専門学校生に向けての説明会を開き、1月からは書類選考、面接となる。

なかでも、面接は採用担当者にとっても、入社を希望する学生にとっても大切な過程だ。新入社員は入社すると、コミュニケーションの教育の一環として先輩社員との交換日記を行って

いる。昨年の新入社員との交換日記に「後藤さんに憧れて入社しました」と書いてあった。「説明会ではじめて会ったとき印象がよかった」という。

面接や初対面ときに「第一印象をみる」と話していた後藤さんだが、一方で

就活をしている学生にとっても社員の第一印象は入社するかどうかを左右するうえで重要な要因だ。リクルート課の社員として後藤さんは重責を担っているのだ。

アナウンサーを目指して上京

後藤さんは江戸川大学に入学したときは、アナウンサーを目指していた。

後藤さんは宮崎県出身だ。子どもの頃、同県では民放2局、NHKの総合と教育テレビジョンをあわせて4局しか見ることができなかった。そのため、いつも見ているチャンネルが決まっていた。当時の宮崎県は、娯楽といえばテレビが

らしかなく、漠然とテレビ業界で仕事をしたいと思っていた。なかでも、楽

しくレポートなどをしていくアナウンサーに憧れていた。

後藤さんの出身校は日南学園高校。2007年の夏、野球部は甲子園の切符を持っていたので、宮崎放送が取材に来た。先生から学校案内や質問に答える役目をしてほしいかと頼まれた。いつもテレビの画面で見ているアナウンサーがレポーターとしてやってきた。漠然といたっていた憧れが目標に変わった。

アナウンサーになりたいという思いを大学で探した。調べていくうちに見つけたのが、江戸川大学だった。江戸川大学メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科にはマスコミの現場にいた教員が多く、スタジオも機材も充実していて実践的に学べると考えて志望した。

入学後は、当時同科教授(現・社会学部経営社会学科及びメディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科客員教授)だった小倉淳先生の授業やゼミを履修した。



学生時代のMCやレポーターでも ネットヨタでの仕事でも つねに輝いている

1. 事務室でデスクワークをする後藤さん。2. bayfmの「シラベッターラ・スゴカッターナ」生放送に向けて打ち合わせをしている小島高弘さん（左）後藤さん（右奥）。3. 2013年江戸川ガールズコレクションでMCを務める後藤さんと小倉先生



bayfm(76.0MHz ほか)は千葉県にあるFM放送局だ。2010年4月から4年間にわたって、毎週土曜日20時から22時放送で小島高弘さんがパーソナリティを務めていた「In Alive」の中の10分間のコーナー「シラベッターラ・スゴカッ

ターナ」を江戸川大学が提供していた。同コーナーの制作には学生たちが参加し、生放送されていた。後藤さんが参加したのは、2012年の3年生から2013年の1年半。いろいろな企画を担当した。たとえば2012年5月12日のテーマは「もしも方言なら!」。方言の男女での好感度の違いについて、学内外で取材したレポートをスタジオで小島さんに聞いてもらいながら一対一でトークする。台本も自分で作成し、事前に小島さんに説明し、本番は生放送で進める。ものすごい緊張感を経験したという。

大学のカリキュンセンターに相談し、紹介されたのがネットヨタ千葉だった。車にも興味はあったし、若者向けのラインナップが充実しているの、「トヨタのなかでもネットがいい」と思い、営業として選考を受けた。

「人」で車を買っていただく
ネットヨタ千葉



ネットヨタ千葉は、千葉市中央区に本社を置き、千葉県内に51店舗構えている自動車販売会社、いわゆるディーラーだ。ヴィッツやヴェルファイアといった車種を中心に自動車を販売している。1967年にトヨタオート千葉として創業し、今年で52周年を迎える。

千葉駅近くにある本社ビルはグループ会社である千葉トヨタ自動車、トヨタレンタリース千葉、千豊の店舗も併設されていた。案内された2階のロビーはガラス張り

小倉先生は元日本テレビアナウンサーで、授業以外にbayfmの番組制作に参加していた学生やマスコミ塾(現・マスコミ自主講座)などでアナウンサーになりたい学生に指導を行っていたので、そのどちらにも参加した。

bayfm(76.0MHz ほか)は千葉県にあるFM放送局だ。2010年4月から4年間にわたって、毎週土曜日20時から22時放送で小島高弘さんがパーソナリティを務めていた「In Alive」の中の10分間のコーナー「シラベッターラ・スゴカッ

ターナ」を江戸川大学が提供していた。同コーナーの制作には学生たちが参加し、生放送されていた。後藤さんが参加したのは、2012年の3年生から2013年の1年半。いろいろな企画を担当した。たとえば2012年5月12日のテーマは「もしも方言なら!」。方言の男女での好感度の違いについて、学内外で取材したレポートをスタジオで小島さんに聞いてもらいながら一対一でトークする。台本も自分で作成し、事前に小島さんに説明し、本番は生放送で進める。ものすごい緊張感を経験したという。

大学のカリキュンセンターに相談し、紹介されたのがネットヨタ千葉だった。

車にも興味はあったし、若者向けのラインナップが充実しているの、「トヨタのなかでもネットがいい」と思い、営業として選考を受けた。

ネットヨタ千葉では、「くみプロジェクト」を展開している。車を買うときに難しとか面倒臭いと感じしまうこと、買い方や買った後のことなどについて、かみ砕いて解説されたパンフレットやウェブページを制作して、車購入時の敷居を低くしている。

店舗でのおもてなしにも気を配っているという。女性用トイレでのハンドクリームなどといったアメニティを充実させている。授乳室の完備も

ポルト、食レポなどを実践的に学んだ。就職活動が始まると、後藤さんは全国のキー局から準キー局、地方局のアナウンサー試験を受ける。しかし、なかなかうまくいかない。今思えば、エンタリーシートの志望動機が定まっていなかったという。

地元のテレビ宮崎のアナウンサー試験に落ちたことをきっかけにアナウンサーへの道をあきらめ、一般企業に切り替えて就職活動をすることに決めた。

時期がずれていたため個別対応してもらった。会社説明会は一人で受けた。面接では、この時期になってもひとつも内定がなかった。この時期まで何してたの、この時期まで何してたの」と聞かれた。そこで、これまでアナウンサーを目指してがんばってきたことを説明した。

その中で、その年の11月に開催される学園祭のイベント、「江戸川ガールズコレクション2013」のMCを担当することになった。

営業で選考を受けていたが新入社員としては珍しく、入社してすぐに人材開発部リクルート課に配属された。人材開発部には教育課に3名とリクルート課に3名の社員がいる。

後藤さんはリクルート課の仕事のほか、テレビなどの取材があるリポーターを案内したりインタビューに答えたり、とメディア対応もする。また、実績が優れていた個人や店舗の表彰をする全社員大会の司会なども任されている。

bayfmの生放送やアナウンサー試験で人前で自分の言葉で話す経験を積んできたため、面接では緊張することもなく自分らしく話すことができた。

営業で選考を受けていたが新入社員としては珍しく、入社してすぐに人材開発部リクルート課に配属された。人材開発部には教育課に3名とリクルート課に3名の社員がいる。

後藤さんはリクルート課の仕事のほか、テレビなどの取材があるリポーターを案内したりインタビューに答えたり、とメディア対応もする。また、実績が優れていた個人や店舗の表彰をする全社員大会の司会なども任されている。

ネットヨタ千葉は、社内の明るい雰囲気や店舗でのおもてなしに、このような企業姿勢が現れている。